

平成 30 年 6 月 20 日現在

機関番号：32665

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2017

課題番号：15K12635

研究課題名(和文)身体教育の概念とその変遷について：二つの「身体」(生体・媒体)に基づく検討

研究課題名(英文)The concept of physical education and its transition

研究代表者

中野 浩一(NAKANO, Koichi)

日本大学・工学部・准教授

研究者番号：40579728

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：「体育」の概念について、1870-80年代には身体教育だけ現れるが、90年代には身体教育の現れる割合は減少し、1900年代以降には極少数となる。1890年代からは身体養護が、1900年代からは運動教育が少数現れる。

教育を知・徳・体の三つに区分するペスタロッチ主義に代り、教育目的を精神面の育成に限定し、身体教育の概念を否定するヘルバルト主義が紹介されたため、「体育」の項目のない教育学書が日本で一般化する。このヘルバルト主義が教育学の基礎と見なされて存続していくため、身体問題は、主に医学関係者や体操・体育科教員という専門家の役割となる。

研究成果の概要(英文)： Examining the concepts of "physical education" in Japan, only an education of the body can be recognized in 1870-80, and that concept gradually decreased in 1890, whereas the tendency drastically decreased in early 1900s. The concept of a care of the body can be recognized after 1890s, and an education through the physical activity can be recognized after 1900s.

Instead of Pestalozzianism that divided education into three categories of intellectual, moral and physical, Herbartianism that denied the concept of an education of the body, and limited an educational purpose to the mental aspect was introduced, so that the pedagogical books without the term "physical education" generalized in Japan. Herbartianism was regarded as the basis of pedagogy and this situation continued, so the physical problems were the role of experts, mainly medical professionals and teachers of gymnastics.

研究分野：身体哲学

キーワード：「体育」の概念 身体教育 ペスタロッチ ヘルバルト 森有礼 兵式体操 身体の規律化

1. 研究開始当初の背景

教育区分を「知・徳・体」の三つと明示した最初は、スイスの教育学者、ペスタロッチ (Pestalozzi, J.H.) である。そこで、申請者は、ペスタロッチがなぜ教育学に**身体教育**を位置づけたのか、について検討した。こういった研究がこれまでなかった理由は、今日、体育学という専門分野が存在するので、教育学におけるその位置づけに関心が及ばなかったためと思われる。しかし、教育学とは本来、教育全般のことを包括する学問分野のほずである。

そこで、これまでの翻訳書に頼らず、ペスタロッチの原書を用いて検討を行い、学会で発表した(中野浩一「ペスタロッチ教育学における身体教育の位置づけ：二つの「身体」(生体・媒体)に基づく検討」教育史学会第56回大会、2012年)。これにより、ペスタロッチ教育学では、身体面の育成が「知性教育」と「徳性教育」でも企図されていること、この理由は、精神面(知・徳)と身体面(体)という、三つもしくは二つの側面の一つのものとして調和させるためであること、このため、「**身体教育**」でも、身体面の育成のみならず、その育成を手段とした(通しての)精神面(知・徳)の育成も企図されていること、したがって、「**身体教育**」は、教育目的を達成する上で、教育全般に関わる不可欠な領域として位置づけられていること、また、「**身体教育**」には「身体そのものの育成」と「身体を通しての精神面の育成」という二つの場合が認められ、前者が生体の変化を、後者が他者との媒体を意味し、両者は別の「身体」であることが明らかとなった。

したがって、体育史の先行研究(例えば、木下秀明『日本体育史研究序説』など)では、知・徳・体という場合、**身体教育**の概念を「身体のための教育」としているが、身体面に偏った概念規定となっており、歴史的事実を反映していないことも明らかとなった。

本研究では、新たな試みとして、「身体」を「身体(生体)」と「身体(媒体)」とに区別し、この二つの「身体」という新たな観点から、**身体教育**の概念を歴史的に検討する。

2. 研究の目的

今日、**身体教育**を語る場合、「運動による教育」や「スポーツ」に関する話題が一般的である。しかし、過去においては、**身体教育**が必ずしも身体活動や闘争という要素を不可欠とするものではなかった。例えば、18世紀後半に活躍したペスタロッチの場合、「**身体教育**(*physische Erziehung*)」とは、運動のみならず、言語教育での発声、数学での描画、農事(飼育・栽培)や家事(料理・洗濯)など、身体に関わる全ての技能をその範疇とする概念であった。

過去において広範だった**身体教育**の概念は、どのような経緯を経て変遷していったのか。

本研究は、二つの「身体」(生体・媒体)という新たな観点から、**身体教育**の概念を歴史的に検討し、過去との相違と今日的課題点を明らかにすることに挑戦したい。

3. 研究の方法

二つの「身体」(生体・媒体)に基づくペスタロッチとヘルバルトの分析

第一にペスタロッチの主著である1801年の“*Wie Gertrud ihre Kinder lehrt*”において、彼がどのように**身体教育**を位置づけたのかを明らかにする。

第二に、ペスタロッチの**身体教育**を検討する場合、1807年の“*Über Körperbildung als Einleitung auf den Versuch einer Elementargymnastik, in einer Reihenfolge körperlicher Übungen*”の検討が不可欠である。この文献については、先行研究で主に運動面に関する考察が一般的であり、衛生面など、その他の面が取り上げられることは希である。この資料を用い、彼の“*physische Erziehung*”に認められる概念の独自性について明らかにする。

次に、ヘルバルト(Herbart, J.F.)の場合、**身体教育**を否定しているが、ペスタロッチで認められた二つの「身体」が彼の理論とどのように相違しているのかを明らかにする。また、彼の全集の中に「体操(Gymnastik)」に言及する文献があるので、二つの「身体」の観点から分析を加える。そして、ペスタロッチとヘルバルトを比較した結果を原著論文にまとめる。

ペスタロッチ以前の教育学説の検討

身体教育のルーツを探るため、ロック(Locke, J.)やルソー(Rousseau, J.-J.)などの検討を行うが、心身二元論の祖といわれるデカルト(Descartes, R.)の人間・教育観の検討も行う。デカルトの心身二元論は、精神と身体とはそれぞれ独立する実体であり、また、両者は全面的に合一(心身相関)しているとする説であるが、彼の論考がなければ、心理学と生理学の独自の発展が望めなかったように、**身体教育**という領域が確固たる地位を築けなかったと考えられるからである。

日本紹介以前の欧米におけるペスタロッチ主義とヘルバルト主義の検討

ペスタロッチ主義はアメリカを経て日本へ伝わる。幸い、日本大学文理学部には、アメリカ教育史専門の小野次男(故人)教授が用いた古い教育雑誌が残っている。この雑誌を活用し、日本に紹介される以前のアメリカにおけるペスタロッチ主義を検討する。

ドイツにおけるヘルバルト主義については、ヘルバルト派のケルン(Kern, H.)、リントナー(Lindner, G.A.)、ライン(Rein, W.)などの原本を用い、二つの「身体」について検討する。なお、ヘルバルト派については、その派の研究を専門とする元福島大学教授の庄司他人男氏からの資料提供と助言を受け、研究を進めている。

日本におけるペスタロッチ主義とヘルバルト主義の検討(含、森有礼の兵式体操論)

日本で「体育」という言葉が初めて使われたのが1876(明治9)年3月10日発行の『文部省雑誌』といわれている。先行研究では、この初めての「体育」が欧米で主流だった三育説に基づく"physical education"を訳したものと結論している。しかし、雑誌記事を調べ直すと、表題に「独乙教育論抄 小児教育ノ本意 近藤鎮三訳」とある。訳者の近藤はドイツ語訳を専門とするので、英語ではなく、ドイツ語からの抄訳であることが理解できる。しかも、「看護法八全ク体育ニ關ル者ニシテ...」(p.3)とある。この「体育」の場合、ドイツ語の"Körperpflege"(英語の"physical care"で、"physical education"とは相違する概念)を翻訳したと推測できる。この概念は、これまでの研究で見過ごされてきたものであり、申請者の研究におけるオリジナリティとなる。この点を証明するため、翻訳の元となった原本をドイツのベルリン州立図書館で調査した。しかし、原本を特定するには至らなかったため、明治初期の欧米教育情報の受容史を専門とする東京学芸大学の橋本美保教授の助言を受け、さらなる調査を予定している。

日本に紹介されたペスタロッチ主義の一つであるジョホノット(Johannot, J.)の教育学については、既に検討を終え、原著論文としてまとめている。(中野浩一「高嶺秀夫(会津出身)の『教育新論』(明治18-19年刊)における身体教育の位置づけ:二つの『身体』(生体・媒体)に基づく検討」『日本大学工学部紀要』56巻1号、2014年、日本大学工学部工学研究所)。今後、リーランド(Leland, G.A.)など、検討者数を増やし、ペスタロッチの影響を整理したい。

ペスタロッチ主義以降、ドイツの学説であるヘルバルト説が主流となるが、このドイツ化を方向付けた一人が、初代文部大臣の森有礼である。彼の述べる「体育」を検討すると、それまでにない、新たな概念を提示していることが明らかとなる。この点は、既に原著論文にまとめている(中野浩一「運動教育を意味する『体育』概念の形成過程に関する再検討:森有礼の兵式体操論に焦点をあてて」『体育学研究』48巻4号、2003年、日本体育学会)、『森有礼全集』の分析から、駐米と駐英公使を歴任した森がその公務中、アメリカ、イギリス、ドイツ、スイス、フランスなどで教育研究を行っている事実が明らかとなる。また、ペスタロッチやヘルバルトの原書の分析から、翻訳書では意識されて気づけない森とそれらの教育学書との関連が明らかとなる。この関連を明確にするため、森が歴訪した諸国での資料収集を計画している。

ヘルバルト主義以降の身体教育の位置づけと今日の問題点の検討

最後に、ヘルバルト主義において否定された**身体教育**がその後、どのように位置づけら

れていったのかを検討する。ヘルバルト主義以降、日本に紹介された欧米教育学説は、社会的教育説、実験教育説、人格的教育説、新カント主義教育説、デューイ説、文化的教育説、振興教育説、民族的教育説などである。これらの教育説に関しては、これまでにある程度の資料収集はできている。そして、これらの学説を検討した結果、**身体教育**への言及は認められなかった。この点は、既に学会で発表済みである(中野浩一「教育学が『体育』に言及しなくなる過程、その2:教育関係書雑誌と翻訳本を中心に」、教育史学会第36回大会)。

しかし、二つの「身体」の観点からは分析を行っていないので、新たな観点から再検討を行う。そして、今日に至る経緯とその問題点について検討する。

4. 研究成果

ペスタロッチの「**身体教育**」では運動に限らず、衣・食・住の衛生や休息など、身体(生体)の育成に寄与する方法が取り上げられている。このため、**身体**(生体)の育成を目的とする教育(以下、「**身体**(目的)教育」という概念が認められる。また、それらの方法を手段とした知・徳の育成、すなわち、**身体**(媒体)を**手段**とした精神面(知・徳)の**教育**(以下、「**身体**(手段)教育」という概念も認められる。

ヘルバルトは、身体問題を医学の範疇とし、教育学を精神面の育成に限り、「**身体教育**」という言葉は否定している。そして、体操など、運動の必要性に言及するが、社会性の育成など、目的を精神面に限定する。このため、ペスタロッチにおける**身体**(手段)教育という概念は認められるが、**身体**(目的)教育という概念は認められない。

したがって、両者を比較すると、ペスタロッチの場合、全ての教員が**身体**面の育成に関わると考えられている。しかし、ヘルバルトの場合、その育成は医者などの専門家の役割として、明確に区別されているように、合理化されていることが明らかとなる。

デカルト以前にも二元論的な言及は認められるが、心身二元論を確立した人物としてデカルトは評価されている。これ以降、ロックやルソーの教育論が現れ、**身体**面の育成への言及が認められるようになる。しかし、それらの著書では「**身体教育**」などの言葉は用いられていない。

したがって、教育を知・徳・体の三つに区分し、「**身体教育**」という独自の範疇を教育学に位置づけて普及させたのは、ペスタロッチの功績として評価する必要がある。しかし、その起源をスペンサー(Spencer, H.)に求めるなど、先行研究ではペスタロッチへの評価が見過ごされている。

ペスタロッチの理論はドイツ・イギリス・アメリカなどへ拡散するが、各国のペスタロッチ主義に関する著書を検討すると、教

育が知・徳・体の三つに区分されており、「**身体教育**」では身体(目的)教育と身体(手段)教育との二つの概念が認められる。

また、ヘルバルト主義の著書を検討すると、「**身体教育**」の項目の無いものが一般的であるが、ヘルバルトの理論を受け継ぎながらも、身体面の育成の必要性を述べ、「**身体教育**」を取り上げる著書も少数ながら認められる。

日本におけるペスタロッチ主義(以下、三育主義)とヘルバルト主義における「**体育**」の相違を検討すると、ジョホノットに代表されるように、教育目的を知・徳・体に区分する三育主義では、生理・衛生学に基づき、**身体教育**を意味する「**体育**」が教育学の問題として扱われている。また、体操科教員のみならず、全ての教育者が身体面の育成を担うように求められており、その点は学校教育制度にも反映されている。

しかし、ヘルバルト主義では、**身体教育**を否定するため、「**体育**」の項目のない教育学書が一般化する。「**体育**」の項目のある場合でも、その概念は複数あり、ヘルバルト主義を批判して加えられた**身体教育**と、精神教育から派生した運動教育と、教育を行う以前の段階に身体問題を位置付ける身体養護との三つが認められる。

これらの内、**身体教育**の概念に関しては、三育主義で認められた身体(手段)教育の概念を欠くため、不要なものとして批判され、**身体教育**よりもむしろ、運動教育や身体養護の概念が一般化していく一因となる。精神教育から派生した運動教育の概念については、精神面の育成に偏っているが、運動教育の概念を印象づける役割を果たしたといえる。身体養護の概念については、その後の教育学や学校教育制度に踏襲されていく。

このヘルバルト主義が教育学の基礎と見なされて存続していくため、身体問題は、主に医学関係者や体操・体育科教員という専門家の役割となる。

したがって、今日でも学習指導要領などで三育主義に基づく文言が認められるが、明治初期に一般的だった三育主義と比較すると、身体問題に関しては専門家に任せることで、学校教育全体としては身体への配慮がなされているように合理化されていることが明らかとなる。

森有礼の兵式体操論については、今回、検討することができなかったため、今後の課題としたい。

日本に紹介された欧米教育学説の順に見ると、1870年代に紹介され、1880-90年代に普及する三育説の翻訳教育書では、**身体教育**に関する項目が必ず見られる。1890年代に普及するヘルバルト主義の翻訳教育書では、**身体教育**もしくは身体養護に関する項目が見られるものもあるが、それらの項目のないものが半数以上となる。1900年代に普及する社会説以降の翻訳教育書の大半には、それらの項目は基本的に見られないが、一部に身体養

護もしくは運動教育に関する項目が見られる。それらの「**体育**」は、医学関係者や体操科教員などの専門家が担うようになる。

このように、「**体育**」という用語は今日でも用いられているが、その概念は欧米教育学説の影響を受け、時代と共に変遷する。特に、最初の概念である**身体教育**は、新しい教育学説が紹介されていくに従って消滅し、教育学では「**体育**」の必要性を述べるだけで、その問題を扱わなくなるのである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 3 件)

中野浩一・李吉魯、明治期のヘルバルト主義における「**体育**」- 概念の多様性とその後への影響 -、日本文化研究、有審査、第64号、2017年、pp.25~47

中野浩一・李吉魯、日本に紹介された欧米教育学説における「**体育**」の扱い方 - 「**体育**」概念の変遷に注目して -、日本文化研究、有審査、第61号、2017年、pp.147~177

中野浩一、高嶺秀夫(会津出身)の『教育新論』(明治18-19年刊)における「**体育**」の概念 - 知・徳・体の調和との関係 -、日本大学工学部紀要、有審査、2016年、pp.29~35

[学会発表](計 3 件)

中野浩一、「**体育**」という言葉の概念に関する一考察：その歴史研究の現状と概念の再考について、国際文化表現学会第13回大会、2017年5月13日、日本大学国際関係学部(静岡県三島市)

中野浩一、身体教育の概念とその変遷について：研究の進展状況に関する中間報告、第59回日本大学工学部学術研究報告会、2016年12月3日、日本大学工学部(福島県郡山市)

中野浩一、明治期のヘルバルト主義における「**体育**」：概念の多様性とその後への影響、教育史学会第59回大会、2015年9月27日、宮城教育大学(宮城県仙台市)

[図書](計 1 件)

中野浩一、身体教育研究序説：近代日本の教育学における「**体育**」の扱い方の変遷とその理由、2016年、pp.1~214、不昧堂

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中野 浩一 (NAKANO, Koichi)

日本大学・工学部・准教授

研究者番号：40579728